

1年 2年	通年	科学と人間生活	履修形態	全員履修（3修制）
			履修単位	2単位
		科目の目標	教科書	科人302 科学と人間生活 （啓林館）
		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	副教材等	なし
			履修条件	必履修科目
学習内容				
自然と人間生活とのかかわりを、生物、化学、物理、地学の4分野に分けて学習する。また、科学技術が人間生活のどのようなところで生かされているかについて学習する。				
基礎的な学習を苦手とする生徒への指導上の工夫等		毎時間ノートを点検し、重要語句を書くことができているかを確認する。また、計算問題などは小テストを実施し、理解度を確認する。定期考査前には考査対策プリントを出し、提出させる。考査問題を考査対策プリントの内容から出題する。		
評価方法		定期考査、提出物、授業中の態度		

授業計画（学習内容・学習活動・ねらい及び評価のポイント）				
期	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	
前期	4	第1部 生命の科学 第1章 生物と光 第2章 微生物とその利用	・植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光のかかわりについて理解させる。 ・様々な微生物の存在と生態系ではたらき、微生物と人間生活のかかわりについて理解させる。	
	5			
	6			
	7	第2部 物質の科学 第1章 食品と衣料 第2章 材料とその利用	・身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について理解させる。 ・身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について理解させる。	
	9			
後期	10	第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用 第2章 熱の性質とその利用	・光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解させる。 ・熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解させる。	
	11			
	12			
	1	第4部 宇宙や地球の科学 第1章 身近な天体と太陽系における地球 第2章 自然景観と自然災害	・太陽や月などの身近に見られる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について理解する。 ・身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連づけて理解する。	
	2			
学習評価の観点別規準と評価方法				
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度・意欲
評価基準	我々を取り囲む化学物質や生命、自然災害について、その仕組みを理解し、これからどのように人間が関わればよいか考察できるか。 身近な科学現象を観察し、日常生活での利用方法についてまとめることができるか。		生態系や食品科学、光や熱、天文現象についてそのメカニズムを説明することができるか。	身の回りの化学物質や自然現象について、より多くの興味関心をもっているか。
評価方法	学習状況の観察 ノートの記述 課題への取り組み姿勢 定期考査の結果		学習状況の観察 ノートの記述 課題への取り組み姿勢 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 課題への取り組み姿勢 定期考査の結果
学習サポート（選択をする生徒への助言）				
毎時間ノートをしっかりとること。 考査前に配布する対策プリントをやり、授業内容を必ず復習すること。				